

令和4年9月定例会一般質問

通告 3

質問 標津川堤防強化と西5条中標津橋の着工について

答弁 北海道と連携して早期着工に向け役割を果たしてまいります

17番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。標津川堤防強化と西5条中標津橋の着工についてお尋ねいたします。

この夏のお盆期間、中標津町に大雨警報と洪水警報が出ましたが、幸いに大きな被害は出ませんでした。

しかしながら、道南では24時間225ミリという雨量となり、大きな被害も出ております。この雨をもたらした前線は東北地方北部に停滞を続け、大被害を発生させましたが、16日の午前中には中標津上空にも線状降水帯様のレーダー映像が見られ、6年前の選挙戦のさなかの増水が思い起こされ、強い不安を覚えました。

さて、今般改定された中標津町のハザードマップは千年に一度の318ミリの雨量を想定して作成され、それによるとほぼ中心市街地は水に浸かると表示されています。その時が来たらここも避難しなくてはいけないのだなと思って見ても、千年に一度の確率と言われては、どうしても緊迫感がございません。

過去に標津川の堤防の最上位ぎりぎりまで水が上がった時、あと何ミリ降っていただければ流れ出していたのかというデータは説得力があり、今1番求められているものではないかと思います。恐らく、上中流部に225ミリ降ったら、中標津町の西5条あたりは確実に洪水になります。

以前、私が総務常任委員長を承っていた2年間の間の活動テーマをこの問題に設定し、ついに現地調査にこぎつけるところまではいきました。その後、標津川の該当地域を担当する北海道庁による堤防のかさ上げと、西5条の中標津橋の改修について住民説明会が実施され、私も説明を聞きました。西5条通りを直進させて標津川を横断する仮設橋を設置したのち、現中標津橋を改修すると説明されていました。もう3年以上も前の話になってしまったと思いますが、なぜにこの工事は着工されないのでしょうか。

今般の降雨状況を見ても、この堤防改修は中標津町にとって喫緊の課題であります。



計画の現在置かれている状況をお教えください。

また、以前から指摘しております当幌などの中流域における川岸に生える樹木の根が洗堀され、下流の橋桁等に引っ掛かり、水害をさらに悪化させる可能性についての調査はどの程度進んでいるのでしょうか。最悪の場合、りんどう園が水没する危険性さえあるのではないかと指摘して、この度の質問といたします。

【答弁：町長】

松村議員御質問の標津川堤防強化と西5条中標津橋の着工について、まずお答えする前に御了解いただきたいのですが、標津川改修工事の事業実施者であります北海道の判断により進められるべき案件につきましては、立場上お答えできませんので、御了解をお願いいたします。

はじめに、西5条中標津橋の着工についてですが、北海道による中標津橋の架け替え工事については、架け替えルート選定において、地権者協議などに時間を要したことから着工が遅れておりますが、令和5年度中には橋の改修工事につきまして、方向性が示されると聞いております。

また、平成28年度の整備計画策定、平成29年度の道路概略検討以降、平成30年度から今年度まで、橋梁の概略設計として架替ルートの検討、予備設計、河川改修工事が行われております。

河川改修工事につきましては、中標津橋より下流側の堤防設置、上流側の低水路掘削、樋門設置、水衝部の護岸や根固めなどの工事が行われておりまして、これにより、近年と同程度の大雨であれば安全が確保されていると聞いております。

次に当幌などの中流域における調査についてですが、標津川については北海道が管理する河川でございまして、公共土木施設の維持管理基本方針に基づいて、河川の日常的な巡視や定期的な点検により周辺環境の状況を把握し、異常や危険箇所を発見または予見した場合には、維持管理水準に基づいて維持管理作業を実施し、洪水時における流木・倒木の発生の防止に努めていると聞いております。

いずれにしましても、治水対策は洪水時の被害から住民の生命と財産を守る根幹的な社会資本の整備でありますので、西5条中標津橋の早期着工、完成に向けて、引き続き事業実施者である北海道と連携を図りながら、本町として必要な役割を果たしてまいりたいと考えておりますので、御理解をお願い申し上げます。